

**世界の人びとのための J I C A 基金活用事業  
終了時活動報告書 (2024 年度採択案件)**

1. 業務の概要	
(1) 案件名	ザンビアと丸森町における農業を通じた win-win 地域おこし
(2) 実施団体名	一般社団法人みつやブリッジ
(3) 実施期間	2025 年 2 月 20 日～2026 年 2 月 19 日
(4) 実施国	ザンビア共和国
(5) 活動地域	ルサカ州チランガ郡およびカフエ郡
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>丸森町はザンビア共和国ルサカ州の小規模農家を対象としたJICA草の根事業の下、「丸森町の在来技術を活用した小規模農家の食糧の安定利用強化プロジェクト」(2016-2019 年)で多品目栽培と生活改善活動を行い、「小規模農家における市場志向型営農普及プロジェクト-丸森町での営農事例紹介を通じて-」(2021-2024)では小規模農家の収入向上を目指す活動を行なっている。2016年より2フェーズにわたり丸森町の小規模農家による農業技術移転、町内では国際協力を通じた地域創生活動を両立させてきた。そして2024年10月に終了後も、ザンビア小規模農家はプロジェクトが紹介した丸森の農業技術や食品加工技術を参考に自ら工夫するなど成果がみられるようになった。</p> <p>また、ザンビア普及員の丸森研修ではザンビア人と交流した町民は異文化の刺激を受け、高齢者に活力が生まれ、国際人になる夢を持つ若者も現れた。さらに、ザンビアと交流がある町、という理由で視察研修など外部から人が出入りするようになり、地域活性化に貢献している。</p> <p>今回、草の根事業のC/P である農業普及員2名から、事業は終了するが草の根対象地域外でも自分の担当エリア内において、まだまだ技術普及すべき地域があると相談を受けた。主な課題としてあげられたのが、多くの野菜や果物を栽培しているが生産物個々の特徴や土壌改良など知識不足による食の栄養と安全性の欠乏、食品加工保存技術の不足により多くの生産物が破棄されている現状だった。作物がたくさん生産されているにもかかわらず栄養不足が起こる理由はいくつかあり、一つは「土壌の貧困化」と呼ばれ、作物が同じ土地で連続して栽培され、土壌中の栄養素が枯渇する現象である。また、同じ作物が繰り返し栽培されることにより、特定の栄養素の枯渇が起こることもある。</p> <p>さらに、農薬や化学肥料の過剰な使用が土壌の健康を損ない、栄養素の吸収を妨げることがあり、作物は栄養価が低下し、栄養不足が生じる可能性がある。</p> <p>安全性の欠如に関しては、農薬や化学肥料の過剰な使用により、作物に有害な化学物質が残留する</p>

可能性がある。また、遺伝子組み換え作物や遺伝子組み換え生物が使用される場合、その安全性についての懸念がある。

以上の見解により栄養改善および食品の付加価値向上を念頭に置いた農家のトレーニングと生計ライフスタイルの改善が必要と考え、当事業の提案をする運びとなった。

## ②活動の目標：

丸森町で実施されている有機農業技術や食品加工保存技術をザンビアの小規模農家に紹介し、健康面に配慮した作物を生産・自家消費し、対象地域内で販売流通させることで栄養や生活の改善向上を目指す。

本事業では、草の根技術事業で培ってきた人材やネットワークで新規に対象地域を開拓し、ザンビア小規模農家の技術習得機会を普及し拡大する。さらに草の根事業ではトップダウン手法でマネジメントしており、フィールドワーカーの農業普及員は受け身の形を取らざるをえなかったが、本事業では現場の普及員と相談をしながら運営することで、普及員の自立とリーダーシップの育成が期待でき、当団体が撤退後も持続的な活動ができるようになる。

また、本事業で指導されたザンビア小規模農家が実際に丸森の小規模農家を訪問し専門家の講義を受講するなど、研修することで得た知見を持ち帰り、現地で発表して活かしてもらおう。来訪した際は町民と交流し町内の地域活性化につなげる。

## 2. 業務実施結果

### (1) 実施した内容

#### 【現地トレーニング】

土づくり(コンポスト)

乾燥野菜用ネット製作

種子配布および栽培法

養蜂初級編

食品加工

炭作り

#### 【丸森研修】 C/P 農業普及員2名を招聘

技術研修

- 柿の加工技術
- ハンドクラフト製作
- レモンの加工技術
- 小規模農家視察訪問による農業技術およびマネジメント習得
- 桑の加工技術、草木染め技術
- ナッツ加工技術、苗の温床づくり

## 交流

### 伊具高校訪問／生徒と交流および協働作業

(1日目)1年生と交流 学内農業系列用ハウスにて花壇植物をプランターに定植

(2日目)2年生と交流 丸森町役場正面玄関花壇に植物を定植

### 館矢間小学校訪問／生徒と交流

4年生 蚕を生育し繭を生産した学習体験を英語で発表する。ザンビアの子供あそびと一緒に遊ぶ。

5年生 宮城の伝統芸能「すずめ踊り」と一緒に踊り、質疑応答の形で異文化交流を図る。

### 地域交流／もちつき体験、着物体験、田舎めし体験、繭から糸を取り出す“座繰り”体験

## (2) 実施成果：

ターゲットは全2村で各村25名の50名の小規模農家である。事業開始時はリモートで実施し、開始半年後の現地渡航でモニタリングを行ったところ、トレーニングは多岐において実施され、確実に普及されていることがわかった。養蜂は初級編「養蜂とは何か」から始めたので、1年で採蜜までの成果は観察できなかった。

数ある技術の紹介をした上で自分が得意なものはさらに周りに普及していくよう助言し、コミュニティ内でお金が回る地域内経済循環を目指していた。実際、乾燥野菜用ネット、農作物などを販売する者もいた。

またC/Pはモチベーションが非常に高く、想定以上に活動を実施、小規模農家にも積極的に参加するよう促し、実施前より一体感のあるコミュニティに成長しているように見受けられた。

C/Pが丸森に招聘されたのは以前の事業に続いて3回目になる。これまでの研修内容と重複しないようなプログラムにし、また招聘2名という少人数のため、よりフレキシブルに、ザンビアの現地事情に沿った内容で実施することができた。

柿の加工技術はマンゴーで、レモンも桑もナッツも現地にあるのでシーズンが来たら実施予定である。

休日を利用して同窓会と称し、ホームステイなど過去にお世話になった地域住民に再会することもできた。

丸森の地域住民からはザンビア人と積極的に交流したいと要望があり、やはり丸森には必要な交流と実感した。

役場正面玄関前の花壇を借りて高校生と協働作業ができたことは町のSNSでも拡散され、活動のPRになった。作業中に町長からも労いの言葉をいただいた。

地域文化に触れ、異文化交流する機会も多く、交流を通して研修生はもちろん丸森住民も自分の地域や生活を振り返り説明することで、新ためて自分の地域を知り、誇れる機会があった。多文化共生を目標に掲げる町政に貢献することができた。

### (3) 得られた教訓など：

本事業を通じて、リモートでのコミュニケーションにおける報連相や計画共有の大切さを改めて実感した。現地 C/P は非常に意欲が高く主体的に活動を進めてくれた一方で、事前の計画共有が十分でなく、想定外の活動があり、予算面での調整に非常に苦労した。

C/P にはルールとして、時期的に必要なと思うトレーニングを適宜選択し、まず見積もりを提示するよう依頼。その後ミーティングを行い、トレーニングを実施する、という手順を説明し、定期的に催促していたが、結果的に現地で独走してしまった。

リモートで現地の主体性を尊重しながらサポートに回り、マネジメントしていくのは容易ではなかった。

この経験から、今後は活動内容や予算について事前に丁寧に共有し、さらに細やかなコミュニケーションをとることにより円滑な連携が図れると考える。または現地に駐在し、近い距離でマネジメントを行う。

一方で、(2)にあるように事業としては現地と日本双方にとって有意義な成果が得られた。また、現地の小規模農家の声を直接聞くことができた経験は、自身の活動への意欲を高める大きなきっかけとなった。

今後はこれらの学びを活かし、より良い協働の形を築いていきたい。

### (4) 今後の活動・フォローアップの方針：

終了後は現地で何か問題が起きたり、不明な点があれば WhatsApp で引き続き問い合わせができる体制になっている。

丸森町に関してはザンビア人と交流できるようなイベントを開催したいと考えている。

また、本事業の経験を活かし、ザンビアだけでなく町内に移住する外国人と日本人が交流できるような場を企画・実施し、町の地域活性化に貢献していきたい。

### 3. その他(エピソード・感想・写真など)

#### (1) 活動中のエピソード・感想など

日本・丸森町では、「再びザンビア人に会える」という思いから、地域全体での温かく盛大な歓迎を受けた。滞在中は空き時間を活用し、過去の研修で出会った住民との再会の機会を設けた。

再訪の中では、以前専門家としてザンビアに派遣された住民が寝たきりとなっている姿にも触れ、当時の活躍との大きな変化に強い衝撃を受けた。時間の経過とともに人の生活や関係性が大きく変化していく現実を目の当たりにし、ザンビア研修生にとっては、かつて自国で活躍した人物との再会を通じて、日本が直面する高齢化や地域の変化という課題を知る貴重な機会となった。

また民泊受入家庭に対し、再会の喜びをより高めるため、事前連絡を行わず訪問した。そこには家族の一人である難聴の100歳近い高齢男性が一人で在宅しており、言葉による意思疎通が難しい状況であった。しかし、男性が以前贈られたチテンゲ(アフリカ布)を静かに指差したことで、ザンビア研修生は自分たちとの記憶がつながっていることを感じ取り、言葉を超えた相互理解が生まれた。

その後、受入家庭の家族が合流し、再会を喜び合う中で涙を流す場面も見られた。ザンビア研修生とホストファミリー双方から感謝の言葉が寄せられた。

本事業は丸森とザンビアの人と人とのつながりを生み、国や文化、言語の違いを越えて、互いの人生に深く関わり合う関係を育てている。また、単なる交流にとどまらず、お互いの地域に新たな価値や気づきをもたらしていた。その継続の意義を強く感じた。

#### (2) 活動の写真



【ザンビア】食品加工保存技術ワークショップ

チリトマトソース作りの紹介。農作物に付加価値を与え、捨てられる余剰分の活用・日本の「もったいない精神」を伝える



【ザンビア】養蜂技術ワークショップ

蜂箱設置日。ミツバチを誘引するために蜂箱に蜜蝋を塗る。



【ザンビア】乾燥野菜用ネット製作ワークショップ  
製作の他、野菜別干し方の違いや葉物以外の作物を紹介。普及員との信頼関係があり農家の参加率は高い。



【ザンビア】作ったコンポストを視察  
農家は誇らしげに質のいいものが出来上がったと説明してくれた。



【ザンビア】地域内での販売流通  
本事業で配布した種子を元に次年度の収入に繋げる



【ザンビア】進化した炭作り  
丸森研修で習得した技術を応用し、捨てられるだけのとうもろこしの芯を活用した炭を自ら考案。木材伐採を減らす環境に配慮した逸品。



【丸森町】伊具高校生と花壇づくり  
丸森町役場正面玄関の冬の花壇に彩りをそえる協働作業。生徒は照れながらも交流を楽しんでいた。



【丸森町】民泊した家族にサプライズ訪問  
おじいちゃんも嬉し泣き。



【丸森町】レモンの加工ワークショップ

ザンビアでも簡単に手に入るレモンの加工保存技術を野菜ソムリエの資格を持つ専門家より習得。



【丸森町】小学生と交流

ナトテラサーナ！（ありがとう）と挨拶を交わす子供たち。現地語はお手のもの。



【丸森町】柿の加工保存ワークショップ

柿はザンビアには無いが、マンゴーと性質が似ており現地でも有用な技術が習得できる。



【丸森町】再会をよろこぶ町民

心と心の絆が生まれる瞬間

### （3）JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

本事業は、当団体にとって初めて助成金を活用して実施した事業であり、事業運営全体を通じて組織としての基盤強化につながる貴重な機会となった。特に、人材マネジメントや役割分担、進捗管理の面において課題が明らかとなり、今後の改善に向けた具体的な検討材料を得ることができた点は大きな成果である。

また、リモート環境下での現地パートナーとの連携を通じて、コミュニケーションの取り方や意思決定プロセスの在り方についても知見を蓄積することができた。

さらに、本事業を通じて、当団体の活動意義や方向性を内部で再確認するとともに、関係者とのネットワークの深化・拡大にも寄与した。特に、現地および日本双方における関係者との信頼関係の構築は、今後の継続的な事業展開に向けた重要な基盤となった。

本助成事業は、予算面で一定の制約はあるものの、小規模であるがゆえに比較的柔軟な運用が可能であり、当団体のような立ち上げ期の組織にとっては、実践を通じて学びを得ながら段階的に成長していく上で非常に有意義な機会であったと感じている

今後、機会があれば本制度を再度活用し、今回得られた学びを活かしながら、より効果的かつ持続的な事業運営に取り組んでいきたい。